



社協シンボルマーク

VOL. ⑧

2024・3

—発行—  
香西地区社会福祉協議会

—協力—  
香西地区コミュニティ協議会

この広報誌は  
赤い羽根共同募金の  
助成により作成しています。

# 全本津自治会新企画（共助の基盤づくり事業助成金活用） 【農業の営みで人々の絆をつくる事業】を実施しました！

全本津自治会とは・・・川向・第二川向・本津北・本津南・本津西・香西南町・オレンジハイツ香西



全本津自治会では新企画として休耕田を借地して「農業体験」を実施しました。米作りに興味を持ってもらう事、地域のつながりを感じてもらう事、そして、田んぼダム（川の流れを安定させる・地下水を作る）について知ってもらう事を願って企画しました。

「かかしづくり」から始め、「稲刈り/はげかけ体験」、稲わらからはかまを取り除いて「しめ縄/しめ飾りづくり」最後は「収穫祭」を実施しました。

収穫祭では、収穫したもち米で地域の方が赤飯を作ってくれました。また、杵と臼で餅つきをして、アツアツの餅を丸めて食べたり、しめ飾りをアレンジして作ったりと楽しいひと時を川向公民館で過ごしました。

次回は田植えから参加者を募りたいです。



香西まつり花火大会(芝山マリンドーム上空)

謹啓 春寒しだいに緩む候、皆様方におかれましては如何お過ごしでしょうか。

平素は香西地区の社会福祉活動にご協力いただき厚く御礼申し上げます。コロナ禍を乗り越え、香西地区社会福祉協議会（以後「香西社協」と言う）は、香西地区コミュニティ協議会の福祉部会として様々な活動を展開しております。

今や、高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。昨年『香西長寿声かけ隊』は「高松市チームオレンジ第1号」に認定されました。これは、認知症になっても地域で自分らしく生活できるまちづくりに寄与している団体と認められたということです。

また、『女性会』の見守り活動、『にこにこ会』の生活支援活動、『香西社協』の共助の基盤づくり事業など、継続的に続けている福祉部会の活動は、地域の安全安心な生活にきっとお役に立てていると自負しつつ、より充実した活動を目標に頑張っております。

さて、去る令和5年6月に、「香西社協」の会長職を大橋光政前会長より継承いたしました。右も左もわからぬまま、就任から早や10カ月が経過しましたが、まだまだ未熟者です。「香西社協」の同志面々をはじめ地域の皆様のご支援とご協力のもと、徐々に活動の幅を広げつつあります。不肖ながら今後も精進して参る所存ですので「香西社協」へのご指導ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶の言葉とさせていただきます。 謹白



香西地区社会福祉協議会  
会長 綱井 延多

香西地区コミュニティ協議会理事  
香西地区連合自治会副会長  
趣味:「内緒です。笑」  
座右の銘:「シンプルイズベスト」  
好きな食べ物:「麺類全般」



## ○社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法第109条に「地域福祉の推進の担い手」として位置付けられ、地域福祉の推進を図ることを目的とした、営利を目的としない民間組織です。

## ○高松市社会福祉協議会とは

高松市社会福祉協議会は地区担当職員（コミュニティソーシャルワーカー）と生活支援コーディネーターを設置し、住民参加の支えあう地域づくりを支援・推進しています。

## ○地区社協とは

「地区社協」と略される地区社会福祉協議会は、地域の明るいまちづくりを進めることを目的に、地域の民生委員・児童委員や福祉委員などの各種関係団体などで構成され、地域住民の参加と協力により、自分たちが暮らしていく中での生活上の問題について話し合い、住民同士が協働し、住み慣れたまちで誰もが安心して生活できるよう問題解決のための活動を推進していく住民主体の組織です。市社協と地区社協は対等なパートナーとして連携をとりながら地域福祉を推進しています。

\*高松市社会福祉協議会ホームページより引用



このシンボルマークは「社」を図案化したものです。  
「手をとりあって、明るいあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

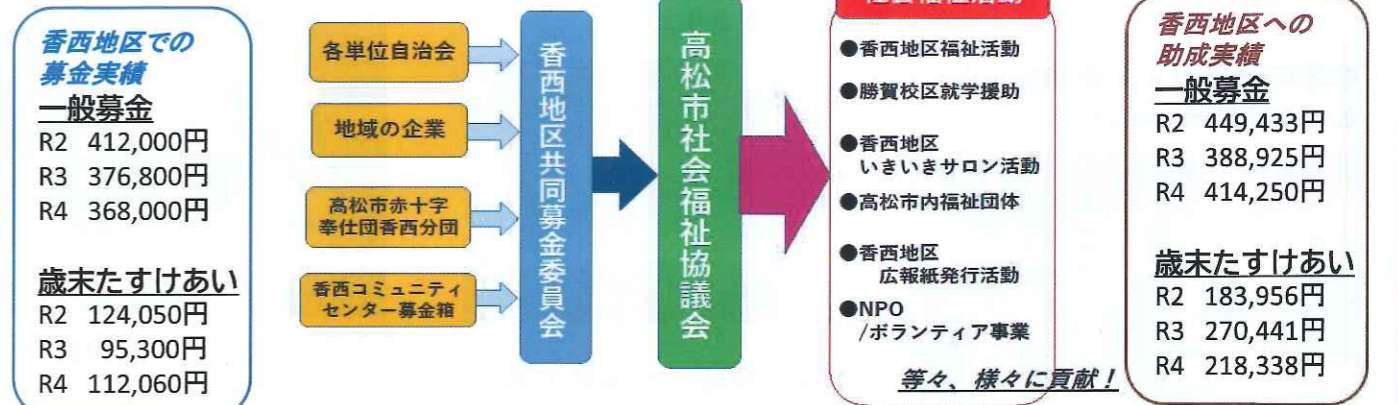


## 「共同募金」ってな～に？

「共同募金」と言えば、その昔小学校でクラス全員に針のついた（懐かしい時代）赤い羽根が配られていました。クラス全員が制服の胸に自慢げに赤い羽根を刺していました。PTA会費の中に含まれていたのでしょうか？

募金は全て高松市社会福祉協議会に集約され、**募金実績に応じた計算で地域に還元されます**。実は香西地区は高松市内でも募金実績が**最下位**付近なんです。従って助成金の一部は**他地区から助けて頂いている現状**です。

～是非あなたのご協力をお願いします！～





## 生活支援助け合い「香西にこにこ会」

令和4年5月より、香西地区社会福祉協議会の事業として、生活支援助け合い事業「香西にこにこ会」の活動を始めております。香西地区にお住まいで、介護保険の要支援1, 2認定の方、高齢者世帯、障害のある方、子育て世帯の方等が対象です。ゴミ出し・家の周りの草抜き・お掃除でお困りの方、お気軽にご相談ください。

～1回60分以内/月5回まで～



家のお掃除  
300円



家の周りの草抜き  
300円



ゴミ出し100円

～お申込み・お問合せ先～  
香西にこにこ会 080-9364-2207  
受付時間:月～金 9時から16時まで

## 香西長寿声かけ隊

「認知症になっても、安心して暮らせるまちづくり」を目的に2014年に結成。認知症の人たちの見守り活動、認知症予防・啓発、ネットワークづくりを中心に活動。主に「サンカフェ香西」(月4回毎木曜日)「認知症SOSやさしい声かけ模擬訓練」(年1回)「香西長寿声かけ隊健康フェア」(年1回)認知症サポーター養成講座(随時)を企画・運営。その活動が評価され、2023年3月「香西長寿声かけ隊」が高松市から、認知症の高齢者らへの支援に取り組む団体「高松市チームオレンジ」(\*)の「第1号」として認定され、5月9日認定式が行われました。

(\*) チームオレンジとは、厚労省の事業のひとつで地域住民の認知症サポーターの方々などがチームを組み、同じ地域で暮らす認知症の方とその家族の見守りや支援を行うことを目的とした活動



サンカフェ香西  
(月4回毎木曜日13:00～15:30)  
お気軽にお立ち寄りください

認知症SOSやさしい声かけ模擬訓練  
(2023年11月25日)  
読売新聞オンラインニュースより引用

香西長寿声かけ隊 第7回健康フェア (2024年1月27日)

## いちごmamaくらぶ

香西地区民生委員児童委員のメンバーを中心に、地域の子育てネットワークで「頑張っているパパママの応援活動」をしています。

### ＜香西長寿声かけ隊＞と＜わはは広場香西＞の合同イベント

おじいちゃん おばあちゃん お父さん お母さん、子どもたち みんなで遊ぼう!!  
世代間交流がありました。



＜香西保育所＞の先生と遊ぼう



パパ・ママ・じーじ・ばーば  
いつでも参加OKです。



毎月 第1・3水ようび  
10時～12時

＜中学のお兄ちゃんお姉ちゃん＞  
と一緒に遊ぼう (東原りここ)



## 「祝 金婚の会」ご報告

令和5年9月27日午前中開催しました!

昨年度から、香西地区在住のご成婚50年以上のご夫婦をお祝いする会を催しております。今年度も3組のご夫婦にご来館いただき、開催することができました。

高松市から贈られる表彰状と金杯に添えて、当日撮影したお二人のお写真を写真立てに入れて差し上げました。また、今年はお祝いにまつわる都々逸を“より加”さん(都々逸日本一受賞者)の喉で堪能しました。茶話会の会話も弾み和やかで楽しいひと時でした。



～記念撮影スナップ～



「交わす言葉は  
少ないけれど  
「お祝い」と  
「はいよ」で五十年



～贈呈式の風景～

※「広報たかまつ」6月号にお知らせが掲載されますので、該当されるご夫妻は、ぜひお申し込みください。ご質問はコミュニティセンターでも受け付けております。



## 保健委員会

●保健委員会では胃がん・肺がん検診の受付サポートや献血キャンペーンなどの啓発活動に参加し、地域の皆様の健康寿命を延ばすお手伝いをしております。

○夏には健康寿命を延ばす決め手となるお口の手入れをテーマにした講習会を開きました。全身の健康を守るブラッシング方法などいつもの



歯磨きにひと工夫を加える、興味深いお話を聞かさせていただきました。

○秋には多目的広場遊歩道にて勝賀ブロック研修会を予定していましたが、悪天候のため急遽コミセンに場所を変えて、着座で出来る日々の暮らしの体操を教わりました。

～毎日の積み重ね、習慣が大切ですね!～



## 四国ブロック再犯防止シンポジウム 香西保護司会

▼誰も抱えている生きづらさは眼に見えない。それは、私たちの想像を遥かに超越した心の内側に生きづらさがあるためである。▼司法と福祉の架け橋とは、誰一人として取り残さない地域共生社会の実現を目指していこうと、法曹界、地域社会が一体となり、犯罪の負のスパイラル(放置、孤立、犯罪、排除)を見逃さない想像力を高めようとする取り組みである。▼犯罪は得てして、加害者が全て悪いと考えるのは人の常である。私もそう思っていた。▼ただ、それだけでは、犯罪の件数は減らず被害者も増え、再犯者も増え続ける。▼「普通」は、自分の感情や生きてきた経験値などから、他者から見れば違っているように感じられる。そこに、生きづらさの狭間が存在する。▼今や、検事、弁護士、矯正施

設、保護観察所、社会福祉士、社会福祉協議会などが、様々な剥ぎ取られて生きる人の心の内側に眼を向けている。▼決して犯罪者を擁護しているのではない。ただ、死刑や無期懲役の刑以外の受刑者は必ずと言っていいほど、社会の一員として戻ってくる。▼先進的な取り組みに努めている地域では、法曹界の連携を地域を挙げて、排除された者の立ち直りを支援している。▼バッシングや人の批判は誰でもできる。▼ただ、そのために人の命まで奪っていいとは誰にも言えない。そういうほんの少しの優しい想いやりもあって良い。▼誰一人取りこぼさない社会の実現に尽力して、犯罪が減少すれば被害者も減り、住みやすい安心な地域社会にしたいものである。▼お互いが助け合える地域福祉となるために。